

〔展示会・講演会〕

沖縄展示会・講演会

「東亜同文書院大学から愛知大学へ」

日時 2013 年 2 月 16 日（土）、17 日（日）
場所 沖縄産業支援センター（沖縄県那覇市）

2 月 16 日（土）、17 日（日）、沖縄県那覇市の沖縄産業支援センターにて私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」を開催いたしました。

本展示会・講演会は、大学の前身といえる東亜同文書院大学（戦前中国上海に存在）に関連する貴重な資料を中心に、愛知大学や卒業生についての資料を展示するとともに、芥川賞作家の大城立裕氏（東亜同文書院 44 期生）や沖縄税理士会会長である百田勝彦氏（愛知大学卒業生）による講演がなされ、来場者は両日で約 130 名でした。また、本学卒業生でのちに沖縄に移住し、昨年末に亡くなられた写真家・東松照明さんに関する写真やパネルも展示でき、来場者に本学との関係を伝えることができました。

開会挨拶

愛知大学学長 佐藤 元彦

皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました愛知大学の佐藤でございます。本日は愛知大学東亜同文書院大学記念センターが主催をいたしました、明日にかけての 2 日間にわたる沖縄展示会・講演会に多くの皆様にお集まりいただきましてまことにありがとうございます。大学を代表してお礼を申し上げたいと思います。ちなみに、沖縄在住の方はどれくらいいらっしゃいますでしょうか。どうもありがとうございます。愛知大学という名前につきましては、愛知県にあるからだというふうにご認識いただいている方が多いのではないかと思います、大学名は実は地名と直接関係がございません。知を愛するものが集うという大学、これが元々の意味でございます。

東亜同文書院、あるいは東亜同文書院大学との関係でいきますと、後ろの方に展示がございますけれども、同文書院大学の学籍簿、成績簿、これを愛知大学が受け継ぎまして、現在も大切に保管しているところでございます。それからもう一つ、こ

れも後ろに展示がございますけれども、東亜同文書院時代に始められました辞典編纂、当初華日辞典というふうに言っておりましたけれども、その作業を愛知大学が引き継ぎまして、これが 1968 年に初めて中日大辞典という形で刊行されております。それから、東亜同文書院大学の最後の学長、本間先生という方でございますけれども、本間先生は実質的に愛知大学の創立者であるという位置づけとなっております。

このようなことでありまして、名実ともに東亜同文書院大学を愛知大学が引き継いだという、そういう経緯がございまして、今回も「東亜同文書院大学から愛知大学へ」と、そういうテーマで展示会・講演会を開催させていただいたということでございます。この機会に、「愛知県にあるから愛知大学」というふう理解をされているという方がおられましたら、そうではないということをご認識いただけたらと思います。

ちなみに、愛知大学の候補地としては、東京、

それから九州、北陸・富山といったところが検討されたいきさつがございます。おそらく、どの地に設立されても愛知大学という名前にされたのではないかなと思っていますところでございます。愛知大学は、東亜同文書院大学同様に、設立間もない時期から全国から学生さんが集まってきておりました。最近では、地元といいますか、愛知県、静岡県、三重県、岐阜県を含めた東海というところに志願者・入学者が集中しているところでございますけれども、沖縄でもですね、同窓会の支部がございまして、実は毎年総会を開催しております。全国、北は北海道から南は沖縄まで、同窓会のネットワークが網の目のように張りめぐらされておりまして、総会が開かれるたびに学長は出席をしなければならないということで、大変忙しい同窓会でございます。実はその同窓会の方の思いが詰まった奨学金制度が3年前よりスタートしておりまして、それは何かといいますと、東海4県以外から推薦入試ではなくて一般試験でご入学いただいた方に対して毎年50万円、4年で200万円の奨学金を差し上げているという制度でございます。今日ここにご出席されました方のお子様あるいはお孫さんにですね、今申し上げました奨学金にご関心がおありでしたら、大学案内の175ページに少し説明がございます。より詳細についてはホームページの方でもご覧いただけたと思いますので、宜しくお願いしたいと思います。それで、この奨学金のためにですね、ここ3年間、毎年同窓会の沖縄支部総会のタイミングでこちらにお邪魔させていただいておりまして、高校訪問をさせていただいて奨学金のご案内をさせていただいているところでございます。

4年間で200万、これは貸与ではなくて給付でございます。差し上げるといふ奨学金でございます、ぜひお使いいただきたいと思います。同窓生がですね、愛知大学が所在する東海地域以外からですね、優秀な学生さんを集めて東亜同文書院大学、あるいは設立当初の愛知大学の姿をやはり復活してほしいという思いが詰まった奨学金制度でございますので、ぜひご活用いただければと思っています次第でございます。

さて、本日、明日と講演会・展示会を開催させていただくことになりますけれども、これからご講演いた

だく大城先生、東亜同文書院大学卒業生でいらっしゃいます。東亜同文書院大学を引き継いだ愛知大学として、大変に光栄に思っているところでございます。あわせて東亜同文書院大学、愛知大学という中国、あるいは日中関係というところに焦点が当てられがちでありますけれども、よく見ますと大城先生もそうでいらっしゃいますけれども、世界的に活躍をされている。中国との関係、日本で活躍されているにとどまらず世界で活躍されているということでございまして、本日はですね、そちらにルーマニア大使を歴任された小崎先生もご出席をいただいておりますけれども、やはり世界的に活躍をされている、そういう人材を輩出していたということでございます。その意味では日中関係、中国に関するところだけではなくて、それを一つのベースにして世界的に活躍する人材を育てようということで、幸いにもですね、昨年文部科学省のグローバル人材育成推進事業に愛知大学が採択をされました。これは全国の国公立を含めて760から770の大学があると思いますけれども、42の大学が採択をされまして、その中に愛知大学も入ったということで、これをさらに展開しながら東亜同文書院大学の際に築かれたその人材養成といいますか、そういったものをさらに愛知大学としても受け止めて発展をさせていきたいというふうに思っているところでございます。

大分長くなりまして、大城先生のご講演の時間が短くしてしまうようなあいさつをして大変申し訳ありませんでしたけれども、この機会に愛知大学をよりよく知っていただくと同時に、奨学金のこと、それからさっき申し上げましたグローバル人材育成推進事業のことにつきまして、皆様にさらなるご理解を賜われたいというふうに思っている次第です。最後になりますけれども、今回の企画に賛同してご後援をいただきました沖縄タイムス社の方々、それと琉球新報の方々、さらには東亜同文会の言わば後身というふうに言っておりますけれども財団法人霞山会の関係者の皆様、そして愛知大学同窓会の関係者の皆さんに心からお礼を申し上げまして私のあいさつとさせていただきます。本日、明日と宜しくお願いいたします。ありがとうございました。